

第四十一回 高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会・授賞式



高円宮妃殿下から鈴木美結さんに高円宮杯が授与された



展覧会場の作品の前で記念撮影

高円宮妃殿下のご臨席を賜り、第41回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会・授賞式は、8月24日(日)、東京・千代田区の日本武道館において盛大に開催された。

授賞式では、毛筆の部1万3千601点、硬筆の部7千246点の合計2万847点の出品作品から選ばれた特別賞、優秀・優良団体賞の表彰が行われた。

展覧会には延べ約1千名が来場。授賞式には受賞者、関係者ら約600名が出席し、会場各所で賑わう様子がみられた。

授賞式では、高円宮賞受賞者の鈴木美結さん(宮城県・仙台育英学園高等学校)

(3年)をはじめ各特別賞受賞者260名、24団体(当日欠席者含む)が表彰された。

◇展覧会

展覧会は高円宮賞をはじめ、内閣総理大臣賞、日本武道館大賞、衆議院議長賞、参議院議長賞など特別賞受賞作品260点(毛筆173点・硬筆87点)並びに本誌手本揮毫の先生方による特別出品作品(22点)が展示され、午前10時の開場と同時に多くの観覧者が来場した。

高円宮妃殿下は日本武道館に到着されると、高村正彦大会会長(日本武道館会長)の先導で展覧会場へと向かわれ、最初に高円宮賞の作品を鑑賞された。同賞受賞者の鈴木さんに親しくお言葉を掛けられた後、記念撮影が行われ、その後も各賞受賞者との記念撮影に笑顔で応じられながら、和やかな雰囲気の中、各作品を鑑賞された。



水谷尚人 文部科学省
初等中等教育局視学官



川端達夫 大会副会長・
日本武道館理事長



高村正彦 大会会長・
日本武道館会長



高円宮妃殿下



授賞式会場には受賞者他保護者等が多数来場



表彰の様子。賞状と賞品（楯）が手渡された



授賞式終了後の記念撮影も慣例化

◇授賞式

授賞式は高円宮妃殿下ご臨席の下、午後1時から開始された。

はじめに、高村大会会長が主催者挨拶に立ち、「高円宮妃久子殿下のご臨席の栄を賜り、第四十一回高円宮杯日本武道館書写書道大展示会が盛大に開催されますことは、主催者として大きな喜びであります。この展示会は、昭和60年に第一回が開催され、我が国の書道展では唯一の高円宮杯を戴いており、以来、お陰様をもちまして、本年で第四十一回を迎えることができました。栄えある各賞を受賞された皆さん、この度は誠に

どうございます。お迎えできたことを大変嬉しく思います」と述べた。

続いて、高円宮妃殿下から、「書道は、わが国の長い歴史の中で洗練され、日本を代表する伝統文化として発展してまいりました。今日では多くの国民に愛好され、海外でも高い評価を得て、人々の心に喜びや感動を与える重要な文化活動となっています。心を込めた筆づかいで、一つひとつの言葉を丁寧に書き上げていく書活動の中から、自ずと豊かな人間性が養われ、日本人としての自覚と誇りが高まってまいります。本日、数多くの作品の中から厳正な審査を経て、栄えある

高円宮賞を受賞された鈴木美結様をはじめ、受賞者の皆様、まことに改めてとうございます。これからも、日本の伝統文化を学習しているという誇りを胸に、ますますのご精進を期待いたします」とお言葉をいただいた。

次に、あべ俊子文部科学大臣のご祝辞を水谷尚人文部科学省初等中等教育局視学官が、「書写・書道は我が国が世界に誇るべき伝統文化の一つであり、文字を正しく整えて書く力を育み、その力を学習や生活の中で役立てる態度を育てる重要なものです。本展示会には、児童生徒や学生の皆さんの素晴らしい作品が数多



展示会場（中道場）で高円宮賞受賞作品をご鑑賞中の妃殿下



授賞式は、厳肅な雰囲気の中、午後1時～3時過ぎまで大道場（アリーナ）にて実施した

く出品されたと伺っております。これは皆さんの日々の努力の結晶であり、我が国の書写・書道の水準を一層高めるもの

と確信しております。今後皆様も、書写・書道を通して、自らの可能性を最大限に発揮することを願うとともに、将

来の予測が困難なこの時代においても、力強く輝かしい未来を切り拓かれることを心から期待しています」と代読された。

表彰式では、最初に高村大会会長から高円宮賞受賞の鈴木さんに賞状が、妃殿下から高円宮杯が手渡され、大きな拍手が沸き起こった。引き続き内閣総理大臣賞をはじめとする各賞の表彰に移り、最後に優秀・優良団体賞の表彰が行われた。

すべての表彰後、加藤大会審査部長が、「全国各地から出品があり、上位賞の選定では実力伯仲を強く感じました。本年11月には、書道のユネスコ無形文化遺産登録について発表があります。こうした状況下で本展示会が文字文化を大切にしています。ますます充実発展してまいりますよう、皆様の一層のご支援とご協力をお願いいたします」と審査講評を述べた（詳細は18頁）。続いて、受賞者を代表して高円宮賞受賞者の鈴木さんが謝辞を述べた（詳細は17頁）。

最後に、川端達夫大会副会長（日本武道館理事）が、「高円宮賞を受賞された鈴木美結さんはじめ受賞者の皆さんに改めてお祝い申し上げます。同時にご指導された先生や一緒に学ばれた仲間たち、ご家族の皆様にとっても大変名誉なことと存じます。日本を代表する文化である書道がますます皆様とともに発展してまいりますことを心から祈念いたします」と閉会の辞を述べ、授賞式は盛会のうちに終了した。

高円宮杯第四十一回展受賞者代表謝辞（全文）



仙台育英学園高等学校三年

鈴木 美結



受賞者を代表して謝辞を読み上げる鈴木さん

謝辞

この度は第四十一回高円宮杯日本武道館書写書道大展覽会におきまして名誉ある賞を賜り、受賞者を代表して厚く御礼申し上げます。

審査にあたってくださった諸先生方、顧問の渡邊先生、日々の練習を支えてくれた仲間たち、そして温かく見守り励ましてくれた家族に対し、心より感謝申し上げます。

私は小学校一年生の頃、母の勧めで書道教室に通い始めました。先生のお手本や作品に感銘を受け、美しい字が書けるようになりたい一心で練習に励んでまいりました。

高校で書道部に入学してからは様々な書道展に足を運び、多くの先生方の作品に触れることで、それまでお手本のように整った字を書くことが目標だった私も、見る人の心に残り、魅了するような作品を目指したいと強く思うようになりました。

今回臨書いたしましたのは、光明皇后が書かれた「楽毅論」です。

一線一線が繊細でありながら力強い筆致に魅了され挑戦いたしました。穂先まで力を込めて

鋭さやキレを意識し、全体のリズムや呼吸にも気を配りながら作品制作に取り組みました。自分で思うように書けず悩むことも多くありましたが、試行錯誤を繰り返し、渡邊先生のご指導のもと、自分が納得できる作品を完成させることができました。

今回多くの審査員の先生方に作品をご覧いただき、このような評価を頂けたことは大きな励みとなりました。書と真摯に向き合い技術を磨くとともに、自分らしい表現を探求しながら、これからも一歩ずつ成長してまいりたいと存じます。

最後になりましたが、皆々様の益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げ、御礼の言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

令和七年八月二十四日

受賞者代表

仙台育英学園高等学校三年

鈴木 美結